





# 北海道澱粉工業協会が 第56回定期総会開催

北海道澱粉工業協会（以下、澱粉協会）の第五十六回定期総会が令和二年十一月二十七日に開催されました。今回は、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため書面による開催となりました。令和元年度事業報告、収支決算、令和二年度の事業計画案、収支予算案などが書面審議、それぞれ了承されました。

令和元年度事業報告では、原料対策としてでん粉専用品種のシストセシチュウ抵抗性品種を海外から導入していることや、令和四年にはでん粉原料用馬鈴しよをシストセシチュウ抵抗性一〇〇％とするべく、平成二十五年に「コナユキ」、同二十九年には「コナヒメ」、「コナユタカ」、さらに同三十年に「パールスター」が一般圃に栽培が開始され、澱粉協会が三年間に亘り早期普及を目指すべく専用品種普及促進対策事業を行ったことが示されました。その結果、本年度の作付面積のうち五四・五％が抵抗性品種の実績となっています。

また、①でん粉原料用馬鈴しよの生育・登熟調査や種苗管理センター十勝農場周辺における環境浄化を継続的に図るための一般栽培馬鈴しよの環境調査②優良品種開発を行うこと

とを目的にしたジャガイモシストセシチュウ抵抗性品種早期検定、安定生産を目的に最適な植付時期を検証するためのでん粉原料用馬鈴しよ植付適期調査③原料（品種）がでん粉品質に及ぼす影響を把握することを目的としたでん粉原料品種別の馬鈴しよ精製でん粉品質調査を行ったことも報告されました。

工場対策事業では、製品、排水の分析管理のほか物流、人手不足問題の解消としてレンタルパレットへの対応や新しい物流体制構築に向けて資材の見直しや輸送試験を実施している「でん粉未来プロジェクト」の取り組みも行われました。また各種研修会・講習会の実施、新型コロナウイルス感染症防止対策として澱粉工場へのマスク、フェイスガード、体温計の配付を行うなど工場と協会が一体となった感染防止対策の取り組みを実施しました。需要開発事業では、でん粉需要拡大に向けた取り組みや協会だよりの発刊なども行われました。一般事業と研究開発事業の収支決算書、貸借対照表、財産目録も報告されました。

令和二年度の事業計画では、令和二年産馬鈴しよ作付面積の内、でん粉原料用が指標面積一万五千五百畝

に対して一万四千四百五十四畝になり、でん粉生産量は系統十工場で約十五万八千ト前後が見込まれると報告。澱粉会では、引き続き原料対策としてでん粉原料用馬鈴しよの生育・登熟調査、センチュウ抵抗性品種の普及促進など馬鈴しよでん粉の安定供給に寄与すべく関係機関と連携を強化して取り組みを進めることが示されました。工場対策としては、会員澱粉工場の後方支援として、でん粉の品質分析、製造用水・排水の管理、加工でん粉の製造試験などを行っていくと報告。さらに、工場のフードデイフェンス的対応や「でん粉未来プロジェクト」を推進、でん粉製造及び物流における省力化と効率化への取り組みを積極的に行うことも報告されました。

総会では、澱粉協会の今後の体制についても示されました。澱粉協会は、北海道馬鈴しよ生産安定基金協会と人的協力も含めて連携を取りながら運営してきましたが、北海道馬鈴しよ生産安定基金協会は令和二年四月より北海道農産基金協会に統合、澱粉協会は単独運営での取り進めになっていきます。澱粉協会の運営は、各工場からの会費及び共計（ホクレン手数料内）からの負担により進めています。澱粉生産量が減少傾向の中、今後の費用計画の見直しや効率化を図りつつ事業を進めていくことが必要になっていきます。

こうしたことから、人件費削減に

向けて令和三年四月一日より専務理事から常勤理事に変更、常勤理事は事務局長の職務も兼務することとしました。また、各種研修会は基本として隔年開催とし、内容の充実と効率化を図ること、研究開発については緊急及び中期的問題・課題のターゲットを絞り、強化と円滑化を図りながら各工場の運営に寄与していくことにしました。研修・講習会関係では、毎年開催の役員研修、職員研修は隔年開催、工場長研修は引き続き隔年開催、澱粉研修会、分析講習会は引き続き毎年実施とすることにいたしました。

議案第六号では、同協会の役員選任も行われ、引き続き現体制で進めていくことで了承を得ました。



コナヒメ

# 「オホーツク網走」が最終操業 工場再編で61年の歴史に幕 ビホロ農工連に事業統合

系統澱粉工場の株式会社オホーツク網走（網走市字北浜261番地）が令和二年十一月八日に最終操業を終えました。オホーツク管内の澱粉工場再編の一環として同工場は閉鎖され、事業はビホロ農工連（美幌地方農産加工農業協同組合連合会）に統合されます。網走の地で澱粉生産を開始してから六十一年、馬鈴しよ生産農家の心の拠りどころでもあった工場が幕を閉じます。



山崎孝幸取締役工場長

## 地域に刻んだ六十一年間の歴史

網走市の市街地から十キロほど離れた北浜の地にオホーツク網走の工場があります。高い建物がないこの地域では、五十二層の高さがあるサイロは遠くからも望むことができます。地域のランドマークのような役割を果たしています。網走で馬鈴しよ澱粉の生産が始まったのは、昭和三十四年のこと。当時の南網走農協を管理組合として網走中央農協、網走市の農協の3JA共同工場として産声を上げました。やがて馬鈴しよの作付けが

増え始めて処理能力が追い付かなくなったため、昭和四十四年に現在の地に移り規模を拡大しました。平成三年には南網走農協と網走中央農協、西網走農協が合併してオホーツク網走農協が発足、十一年には網走市農協と合併して新生・オホーツク網走農協が発足。そのタイミングで澱粉工場はこれまでの農協運営から農協100%出資の株式会社組織に分離され、「オホーツク網走」になりました。巨大なサイロができたのもこの年でした。

農協が株式会社を設立して事業を行うのは、小売事業や車両・整備事業では一般的ですが、農産加工では珍しく、道内の十系統澱粉工場の中でも唯一の株式会社組織の工場です。なぜ株式会社にしたのか、山崎孝幸取締役工場長（63）はこう言います。「農協の職員が outward で工場勤務になることが多かったのですが、数年間で異動になるためなかなか技術者が育たない問題があったようです。株式会社にしたのは、職員が異動せず専門的知識や技術を身に付けてもらうとともに、食品製造の専門部署として位置付けし、企業の発想も取り入れた中で取り組むことが望ましいとの判断からです」と話します。

農協が運営していた平成六年ころにはウルグアイ・ラウンド農業合意による馬鈴しよ澱粉工場の再編が行われ、オホーツク管内にあった商系工場の多くが閉鎖され、系統工場の存在感は高まりました。オホーツク網走の運営になってからも地域の馬鈴しよ受け入れを拡大するなどして

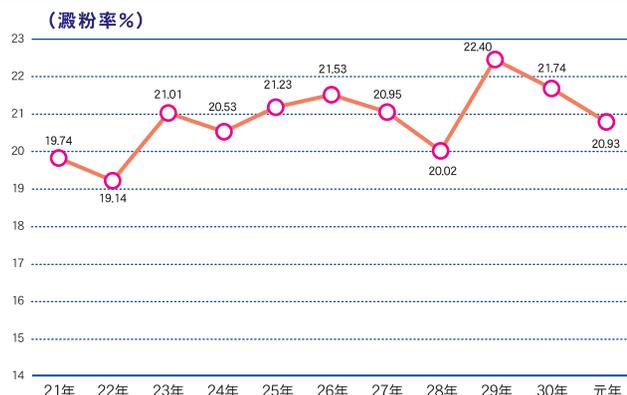
きました。徐々に馬鈴しよとでん粉を取り巻く環境が変化。平成二十八年ころから管内系統五工場の再編機運が高まり、令和元年に工場の老朽化などからオホーツク網走が工場を閉鎖、ビホロ農工連に統合することが管内農協など関係機関の間で決まりました。



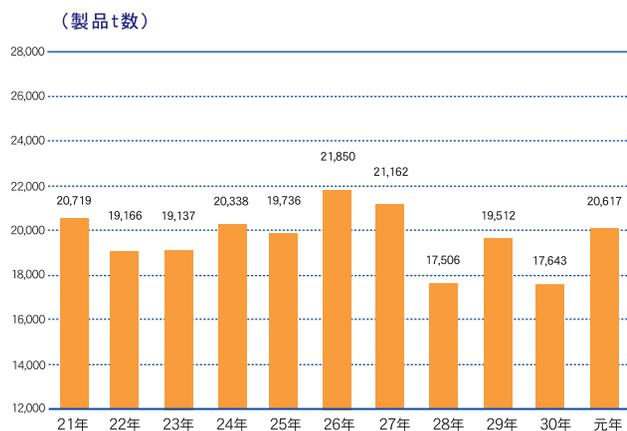
工場正門

「現工場が設立されてから五十年が経過して設備の老朽化も進んでおり、製造コストも右肩上がりの状況でした。馬鈴しよの作付面積も年々減少して稼働率も低下、加工料負担は厳しさを増していました。引き続き工場を存続させるためには大規模投資が避けられないため、産地としてでん粉供給を続ける選択として当工場を閉鎖してビホロ農工連に統合、それによって製造コストを下げるのが最善の策として合意に至りました」

過去の操業実績 Past Operation Results



と山崎工場長は言います。  
**地域の想いをビホロ農工連に託す**  
 しかし、地域の馬鈴しょ農家にとって、工場は身近で馴染み深い存在が始まってから六十年になろうとしているだけに、再編の事情は理解しつつもこの地からでん粉製造の歴史が途絶えることに寂しさは隠せない様子。「農家生産者の多くは割り切れないさを感じています、こうした思いを受け止めて、操業をビホロ農工連に託したい」と山崎工場長。  
 今後のスケジュールは、令和三年三月末までにサイロを含めたでん粉を全て搬出して、社員八人は全員ビホロ農工連に転籍する予定。四月以



降に製造機械の一部を他の澱粉工場に移設するほか、残った機械の解体工事に着手。二年後の令和五年三月末には、一部倉庫や事務所棟以外はすべて撤去されて更地になります。オホーツク網走農協の組合員が作付している馬鈴しょのうち、オホーツク網走が受け入れているのは六割弱。残りは、現在でもビホロ農工連が受け入れています。今後は、全量をビホロ農工連が受け入れ、そのうちの一部はJA斜里町中斜里澱粉工場及びJA小清水澱粉工場に運ばれることとなります。  
 最終操業となった令和二年は、操業中に二度の停電に遭遇したが、受け入れを止めることなく操業を続けることができたそうです。原料処理量は当初計画の約九〇%にとどまったようですが、ライマン価が比較的高く、歩留まりが向上したために澱粉生産量は一万七千五百ト弱と原料が減少した割にはでん粉生産は減らなかつた。山崎工場長は、「工場長に就任して九操業目を終えましたが、量的には一番少ない年になりました。最終操業を華々しく飾ることはできませんでしたが、馬鈴しょの出来不出来に左右されるので仕方ありません。何よりも事故がなく操業を終えられたことは社員のおかげです。感謝の言葉しかありません」  
 サイロの屋上に登ると、眼下に藻琴湖と瀟湘湖が広がり、雪を頂いた斜里岳や知床連山も遠くに見ることができました。山崎工場長は、「毎年、操業時期が近付くと段々と緊張してきて、正直『もういいかな』と

- 工場概要
- 工場敷地／四四、五八二㎡
- 原料処理能力／  
日量 一、二〇〇ト
- 澱粉製造能力／日量 二八五ト



工場全景

思うことが毎回でした。もう、この経験もできなくなります。令和三年三月に工場が本当に終わってしまうときに何を感ずるでしょうかね」と呟くように言いました。その言葉には、万感の想いが詰まっているようでした。  
 【オホーツク網走の歴代工場長】  
 (法人化以降、敬称略)  
 ■ 平成十一年～十二年 佐々木豊 (法人化以前から在籍)  
 ■ 平成十三年～十四年 伊藤信一  
 ■ 平成十五年～二十三年 金田明  
 ■ 平成二十四年～ 山崎孝幸

# でん粉産地代表者会議開催

令和元年産馬鈴しよでん粉の取扱概要や販売経過、共同計算精算案、令和二年産馬でんの情勢並びに取扱などを報告、協議する「でん粉産地代表者会議」が新型コロナウィルスの感染拡大防止の観点から、書面にて開催されました。

会議資料では、令和元年産共計でん粉の取扱概要と販売経過について報告。前年度からの繰越数量を含めた供給量は、前年産を約一万二千ト上回る十八万九千トだったことが示されました。新型コロナウィルスの影響により販売環境が厳しい状況で、令和元でん粉年度の販売数量は、糖化用二万五千ト、化工用三万一千ト、用途拡大を含めた固有用途十萬八千トの合計十六萬四千ト（平成三十でん粉年度十六萬八千ト）となり、令和二でん粉年度への繰越数量は二萬五千ト。また、政策支援対象用途の販売数量は、前年産を一千ト上回る九萬七千トとなり、交付対象比率は五八・一％となったと報告されました。

令和元年産でん粉共同計算精算について、対象数量は六百七十二萬四千二百七十五袋（二十五キログラム）となり本体価格は一袋あたり二千三百三十六円十九銭が提示されました。続いて令和二年産馬でんの情勢並びに取扱方針案が示されました。春先は天候に恵まれたことから播種作

業や萌芽は順調に進み政策は平年並みでしたが、七月下旬から八月上旬にかけての寡照や干ばつにより玉数が少なく大玉傾向となり収量は平年並みからやや下回ったと報告されました。ライマン価は平年と比較して低い傾向で反収も前年産を下回ったことから、令和二年産馬でんは前年産を一万五千ト下回る十六萬四千ト（内、系統分十五萬六千ト）を見込んで示されました。

需給環境について、前年度からの繰越在庫が二萬五千トあるため、令和二でん粉年度の期首供給量は、前年度と同様の十九萬ト。販売にあたっては、中長期的に安定した需要が見込まれる用途・ユーズへの供給を柱としつつ、新型コロナウィルスの影響で不透明かつ軟調な需要動向が懸念されるなか、固有用途を中心に需要喚起策に取り組み販売数量確保に努めることが示されました。

また、北海道澱粉工業協会と連携したでん粉未来プロジェクトにおいて五年または十年先から現在を俯瞰したでん粉の製造・流通面の課題整理と対応方向の検討を継続するほか、レンタルパレットを活用した一貫パレチゼーション輸送の検討も継続していることが示され、以上について令和二年十二月四日書面議決されました。

# 第六回でん粉未来プロジェクト／工場長会議開催

北海道澱粉工業協会は、令和二年十二月十日に第六回でん粉未来プロジェクトと澱粉工場長会議を千歳市の新千歳空港国内線ターミナルビル会議室で開催しました。系統十工場の内八工場の工場長のほか、ホクレン、全農の関係者など二十六人が参加しました。

でん粉未来プロジェクトでは、全農担当者から消費地情勢についての報告の後、紙袋レンタルパレット流通に係る試験経過報告と今後の進め方が議論されました。試験経過では、JR貨物を利用したコンテナ輸送試験から得られたデータが発表され、室蘭地区で計測された強い揺れが原因と想定さ

れる荷崩れが発生したことが示されました。今後JR貨物に強い揺れの検証、実証を求めたいこと



新千歳空港ビルで開催されたでん粉未来プロジェクトと澱粉工場長会議

が確認されました。また、各工場で行われた保管試験を受けて、レンタルパレットサイズを一・一×一・一サイズとし紙袋量目は二十五キログラムハイ積みは4本回しとすることを決め、安定的で実現可能な輸送方法を令和三年五月頃までに確立することを確認しました。

続いて澱粉工場長会議に移り、ホクレン担当者が令和二年産馬鈴しよでん粉の情勢と取扱方針を報告、その後、各工場長が操業実績を報告しました。「ライマン価が平均より低かった」（ようてい農協）、「コナヒメの作付割合が増えたため平均ライマン価が下がり歩留まりも低くなった」（土幌）、「原料比率はコナヒメ五割、コナフブキ三割だが例年の平均ライマン価より低かった」（南工連）、「昨年よりライマン価は高かったが、猛暑、干ばつで黄変が進み生産量は減少した」（ビホ口農工連）など示されました。

また、澱粉工業協会の今後の体制として専務理事を廃し常勤理事とし、専務理事と事務局長の職務を遂行することなどが報告されました。最後に、令和二年の操業で工場を閉鎖するオホーツク網走の山崎孝幸工場長が機械設備の他工場への移譲の状況を話したうえで、協会や各工場に謝辞を述べました。

## 研究開発最前線

ゲノム編集による  
ジャガイモ疫病抵抗性獲得

二〇二〇年のノーベル化学賞に、生物の遺伝情報を自在に書き換えることができるゲノム編集の新たな手法であるCRISPR/Cas9（クリスパー・キャスナイン）を開発したドイツのマックス・プランク感染生物学研究所エマニエル・シャルパンティエ所長と、アメリカのカリフォルニア大学バークレー校ジェニファー・ダウドナ教授が選ばれました。生物の遺伝情報であるゲノムDNAの標的部分を正確に切断し、遺伝子の修復過程で欠損や挿入変異を起こす（遺伝子ノックアウト）、あるいは別の遺伝情報を組み入れる（遺伝子ノックイン）ことにより、遺伝子組み換えの効率を飛躍的に高めることに貢献したのが受賞理由です。

遺伝子ノックインと呼ばれるゲノム編集技術は、ゲノムDNAの二本鎖切断が起こると同時に切断点近傍のDNA配列と相同な配列を含む一本鎖、あるいは二本鎖DNAを細胞に導入し、任意のDNA配列を目的の座位に挿入します。農学分野においても、この方法は様々な作物の品種改良研究に利用されており、本欄で紹介するジャガイモ疫病菌に対する抵抗性強化の研究においても、CRISPR/Cas9による遺伝子ノックインが応用されています（N・Hedger, PLANT CELL REPORTS誌、二〇二〇年、オンライン公開）。

疫病菌の初期侵入行動をジャガイモの細胞が感知すると、細胞壁の強靱

化・肥厚化に関わる各種代謝産物が二次的に蓄積し、疫病菌の侵入を抑制する機構があります。これにはフェニルプロパノイド（各種のポリフェノールと呼ばれる化合物が含まれる）合成経路の各種酵素が関与しますが、罹病性のジャガイモ品種にある機能不全遺伝子を特定し、それを修復することによって抵抗性に転換するのが本論文の内容です。

著者達が注目したのは、フェニルプロパノイド合成経路においてカフェオイールC<sub>6</sub>O<sub>4</sub>O<sub>1</sub>メチルトランスフェラーゼという酵素をコードする遺伝子です。罹病性のジャガイモ品種のラセット・バーバンク（RB）もその相同遺伝子を備えています。疫病菌をRBの葉あるいは茎に接種すると、この遺伝子の発現量は、無接種に比べてそれぞれ七・七倍および六・三倍になることが確認され、疫病菌の侵入シグナルへの反応に引き続き抵抗性に関わる代謝がフェニルプロパノイド合成経路で起こるのは確かです。ただ、RBのカフェオイールC<sub>6</sub>O<sub>4</sub>O<sub>1</sub>メチルトランスフェラーゼ遺伝子の配列中に一塩基多型（SNP）変異が存在するため、本酵素のタンパク質構造が正常のものとは異なることから、RBでは本来の機能が発揮されません。当然、抵抗性反応は中途半端となり、RBは疫病に罹ってしまいます。

フェニルプロパノイド合成経路において、カフェオイールC<sub>6</sub>O<sub>4</sub>O<sub>1</sub>メ

チルトランスフェラーゼは、カフェオイールC<sub>6</sub>O<sub>4</sub>AをフェルロイールC<sub>6</sub>O<sub>4</sub>Aに変換し、これを起点として様々なヒドロキシケイ皮酸類の合成が行われます。すなわち、細胞壁におけるリグニン蓄積、その結果として細胞壁の強靱化による生体防御に寄与することになる重要な酵素と位置づけられます。ゲノム編集ツールで構築した遺伝子修復用の複合体（ガイドRNAとCas9タンパク質から構成される）が、アグロバクテリウム（細菌の一種）によりジャガイモ細胞に導入され、四つのアレル（対立遺伝子）全てが正常配列に組み換えられた個体を選抜されました（RBは四倍体であるため相同染色体上の同一座位に存在するアレル四つが組み換えられた）。これらの組み換え体に疫病菌を接種すると、数種のケイ皮酸誘導物質が蓄積されることが確認されました。同時に、組み換え体の葉に定着した疫病菌のバイオマスは、対照の約二十一分の一になって疫病菌の増殖が抑制されていたことから、抵抗性反応が確実に機能したことが示されました。

なお、遺伝子修復が確認された組み換え体一四五個体から、九系統の第一クローン世代が得られており、今後、温室レベル、さらに圃場レベルで特性が評価されるようです

（北海道大学

北方生物圏フィールド科学センター

教授 近藤則夫

# 原料・技術 NEWS

**イカリ消毒株式会社  
帯広営業所**  
所長 河原 平さん(38)

## 「イカリススマートキャンパス 衛生教育eラーニング」

今、食品の安全性が非常に重要視される時代です。その安全性を確保する方法のひとつに従業員教育があります。弊社ではISO22000規格などのコンサルティング業務を行っていますが、その中で従業員教育が一番の課題だという声を多く聞きます。

その為、計画的に教育を行わなければなりません。コロナ禍で勉強会・講習会などの集合教育を実施することが難しい状況です。

そのような教育課題を解決するために、イカリ消毒株式会社では「イカリススマートキャンパス 衛生教育eラーニング」を開始いたしました。それにより集合教育を開催しなくても各個人がリモートで「いつでも」「どこでも」「何度でも」学べるようになります。

教育を行う際には教材の作成に時間がかかりますが、すでに教材を用意しているため、作成の手間を省くことが出来ます。教育内容は①食品工場でたいせつな11のこと②有害生物の簡易同定と生態の解説③有害生物防除管理の全体像を理解す



河原平さん

### 学習教材の紹介②

#### ー昆虫類のテストー

学習が終了後、精度確認の為のテストを受講していただきます。

- ・選択コース、教材に合わせた種類が出題
- ・問題内容：昆虫類の写真同定テスト(選択形式)
- ・所要時間：約1時間程度



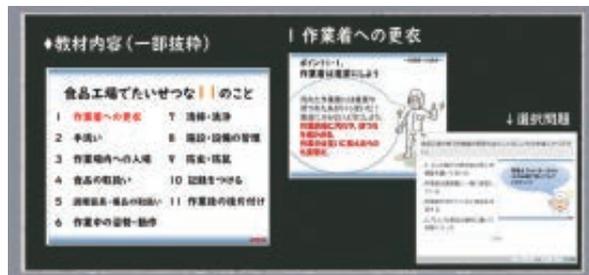
またメリットはそれだけでなく、管理者を設定することが出来ますので進捗確認、能力確認、教育記録といった教育に関わる管理を簡単に行うことが出来ます。

### 学習教材の紹介①

#### 「食品工場で大切な11のこと」

手洗いや製造場内への入場に関する一般的なルールを解説

- ・推奨レベル：一般従事者
- ・教材：1教材 11科目
- ・所要時間：1科目 約5分程度



るの三つがあります。今後は、微生物対策やHACCP関連などの内容を追加していく予定です。

### 学習管理について

#### 進捗管理や学習結果分析等 ができます

イカリススマートキャンパスでは、受講者の他に管理者権限を付与する方を1名選出していただきます。管理者権限を付与された方は、受講用サイトと管理者用サイトのどちらも閲覧可能となります。



### 開設の流れ

弊社ホームページの無料見積り及びお申し込みフォームより必要情報を記入の上、進んでください。見積書が無料で即時発行されますので、ご検討材料にお役立てください。お見積り内容に問題がなければ、仮登録時に送信されるメールに記載されているURLから本申込みを行ってください。

その後、弊社より受講者リストをお送りいたしますので、情報を記入頂きご返送ください。弊社での登録完了後から受講開始となります。イカリ消毒株式会社は、一九五九年の会社設立以降さまざまな現場教育に関する取り組みを続けてきました。講習会やワークショップなどの支援事業もその取り組みの一つであり、長年の実績と蓄積されたナレッジはイカリススマートキャンパスにも色濃く反映される大きな強みです。この機会に新たな教育方法への切り替えをご検討されてはいかがでしょうか。

# 原料・技術 NEWS

ホクレン農業協同組合連合会  
農産事業本部種苗園芸部種苗課

技師 守屋明博さん (43)



「コナヒメ」普及を喜ぶ守屋さん

馬鈴しよやでん粉生産には多くの人に関わっています。育種や防除研究の川上からユーズー、消費者に至る川下まで、途切れることなく繋がっています。それぞれの分野で存分に力を発揮する人の輪が幾重にも広がって、北の大地の恵みを生み出しているのです。そこで、今回は馬鈴しよやでん粉生産を支えている第一線研究者にフォーカスしてみました。

## 開発育種に関わった「コナヒメ」

帯広市出身で帯広畜産大学の学部時代はビートの苗立枯病の生物防除、大学院修士課程では馬鈴しよのそうか病類似病害の研究に携わるなど植物病理を一貫して専攻してきた。当初、博士課程への進学も考えていた

守屋さんだったが、「自分は研究者には向いていない」と決断して就職の道に進み、平成十三年四月にホクレンに入会した。

最初の配属先は、農業総合研究所長沼研究農場。「研究は向いていない」と思っ就職をしたのに、配属先が研究所。もう少し頑張れということだろうと、自らに言い聞かせて仕事に向き合いました」と守屋さん。そこでは、肥料、農薬をはじめ農業資材の効果確認試験などに携わり、平成十七年に恵庭研究農場に移ってからは、馬鈴しよの育種に十三年間携わる。「育種は初めての経験でしたが、大学や大学院で学んだ植物病理の知識や長沼研究農場での経験を生かし、病害虫抵抗性品種の開発に力を入れました。育種には最低でも十年間かかるのでそう簡単に新品种をつくることはできません。幸いにも、でん粉原料専用品種の『コナヒ

メ』の開発育種に関わることができました」（守屋さん）

その後、平成三十年二月に現職に就き、種馬鈴しよをはじめ馬鈴しよ全般に関わる技術的なフォローを担当するようになった。具体的には、販売先や生産現場で障害が見られた（種）馬鈴しよが出てきた際、それが病害虫に由来するものなのか、生理障害に由来するものなのか等について購入者や生産者の問い合わせに対応する業務。馬鈴しよ原原種の受け渡しにも携わっており、農研機構種苗管理センターや行政（北海道庁）と連携する業務も行っている。

また、生産者と研究者の間を橋渡しするのも役割。生産現場と研究現場の双方のことを理解している守屋さんならではの仕事と言えそうである。生産現場の課題を研究者に繋ぎ、研究の方向性などもアドバイスする。「馬鈴しよは、収穫量の年次変動が大きい畑作物なので、安定生産できるようにすることが課題の一つです。安定生産のネックとなっているのは圃場なのか、品種なのか、それとも栽培方法なのか——様々な視点から解決に向けた課題提起ができれば良いと考えています。今、私自身は直接研究することができないので、該当する研究者に生産現場での問題を説明して、研究課題化を依頼するなども、ニーズとシーズをマッチングするお手伝いをしたい」（守屋さん）

## 「新品种の開発・普及に役立ちたい」

守さんが恵庭研究農場で携わった「コナヒメ」は、令和二年度にホ

クレン内部で業務表彰を受賞した。農業総合研究所と農産事業本部内の計三課の連携によって育種く生産現場の普及の拡大に至った点が評価されたの表彰で、守さんは「コナヒメ」の開発に関わり、現職でも「コナヒメ」の種馬鈴しよ受け渡しに関わってきた。「種馬鈴しよ受け渡しにも携われたので、『コナヒメ』の作付面積が増えていくことをとても身近に感じることができました。昨年は作付面積も四千畝ほどになっており順調に普及してきたことを嬉しく思います。私のように、研究と普及の両面で育成品種を見守ってきたのは珍しいのではないのでしょうか」と嬉しそうに話す。

作付面積の縮小や温暖化にどう対応するかなど、現在の役職から見えてくる馬鈴しよの課題も多い。「病害虫に強く、作りやすく多収な品種はもちろん、今後は暑さに強い品種も求められるようになってくるでしょう。様々な視点から馬鈴しよを見つめ、新品种の開発と普及に役立ちたいと願っています」（守屋さん）。心配なことの一つに、コロナ禍での研究活動がある。研究者は机に向かうだけでなく、実際に圃場に出て、現物を見ながら議論することも多い。そういうことへの影響が、一部で出ていることに守さんは気がかりな様子を見せていた。研究所勤務のころは米国や欧州へ海外出張に行く機会に恵まれ、旅行好きに。「昨年はどこにも行けませんでした。コロナが収束したら国内外問わず行ってみたいですね」

# 「農業・農産フェスタin赤れんが」

「農業・農村ふれあいフェスタin赤れんが」が令和二年十月三日、北海道庁・赤れんが庁舎前で開催されました。ふれあい農業・農村実行委員会の主催、NPO法人農村と都市を結ぶ応援団の共催、ホクレンや北海道澱粉工業協会などの協賛で行われたもので、今回は新型コロナウイルス感染症防止対策として各ブースのクイズにチャレンジする通過型の形式をとり三密を避ける運営方法が採用されました。

農村は、コメや野菜などを作る場としてだけでなく、美しい景観や小動物の生息地、雨水を蓄える防災の役割など大切な働きを持つことを知ってもらうために毎年秋に開催しているもので、今回も好天に恵まれまし

た。近年はインバウンドの姿も数多く見られフェスタに国際色が強まっています。今回は、今回はこうしたいつもの光景は見られず子ども連れや市民が中心のフェスタになりま



赤れんが前で行われた「農業・農村フェスタ」



北海道澱粉工業協会のコーナー

した。会場には十五のブースが並び、各地の農産品などが販売され、例年行われていた体験教室は規模を縮小して行われました。また、九カ所のブースに答えがある農業クイズが行われ、クイズラリーの制覇者には参加賞が贈られました。道澱粉工業協会のブースには、清涼飲料水や片栗粉、えびせんべいのほかオブラートなどでん粉を使用した商品が展示されたほか、剣淵町で生産された馬鈴しょも展示されました。片栗粉づくりやでん粉がぎづくりは中止されました。

# 「第二十七回馬鈴しょ栽培講習会」はWEB配信による開催

公益社団法人北海道農産基金協会が主催する「馬鈴しょ栽培講習会」につきましては、馬鈴しょの諸課題に関して、農業試験場・関係機関等の最近の研究成果ならびに将来の展望を含めた技術的事項についての講習という位置づけでこれまで実施してきました。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、例年のスタイルでの開催は行わないこととし、講演の様子を録画撮影したものを、農産基金協会ホームページから閲覧していただく形式で実施します。

閲覧には、事前に関係者他に通知するIDとパスワードが必要となりますが、ホームページからもIDとパスワードを発行できるようにします。配信時期につきましては、令和

三年二月下旬を予定していますが、目途がつき次第あらためて農産基金協会ホームページにてご案内します。講習会へのご参加を予定していただいた皆様には何卒ご理解とご了承を賜りますようお願いいたします。



第26回馬鈴しょ栽培講習会 (H31.2帯広)

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年は、公益社団法人北海道農産基金協会がスタートした初年度となりました。今後とも宜しくお願い致します。

今年が丑年ですが、「丑」は中国で生まれた漢字で、本来は「かむ」という意味を持ち、芽が種の中伸びることができない状態を表しており、子年に蒔いた種

が芽を出して成長する時期とされています。

新型コロナウイルスの蔓延で、まだまだ耐え忍ぶ年になるかもしれませんが、地道に着実に進むことで将来の発展へ繋げる年にしていきたいですね。

本年も、引き続き読者の皆様のご意見、ご要望、ご感想を賜りたいと思っておりますので宜しくお願い致します。